

大町病院を守る会会報

No. 23

2013年4月発行
大町病院を守る会
発行責任者北村喜男

ようこそ大町へおいでくださいました

4月人事異動で組織を強化し総力で病院の発展に取り組む

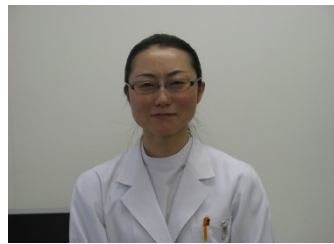
4月1日付人事異動で、院長に井上善博先生、副院長に高木哲先生が任命されました。

院長を兼務していました山田博美先生は、病院事業管理者の専任となり、運営体制が強化されました。また、深松義人先生は副院長（統括）として、新津義文先生は副院長（臨床研修担当）として、引き続き豊富なご経験を活かして新体制を支えていただくこととなりました。

新たに4名の医師が着任されました。（紹介は①氏名 ②専門分野 ③出身地）



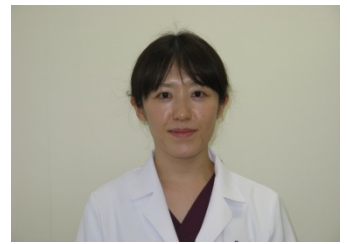
① 飯沼伸佳先生
（いぬま のぶよし）
②消化器外科
③山梨県



① 平賀理佐子先生
（ひらが りさこ）
②一般外科・消化器外科
③長野県



① 野口 渉先生
（のぐち わたる）
②一般泌尿器科
③福岡県



① 大倉絵梨先生
（おおくら えり）
②小児科一般
③長野県

中藤先生・秋田先生・窪田先生・遠藤先生・矢口看護部長が離任

大町病院の危機が叫ばれる中で奮闘いただきました。おかげさまで平成23年度病院会計の黒字転換に大変な尽力を頂きました。中藤先生は山梨県立中央病院へ、秋田先生は篠ノ井総合病院へ、久保田先生は伊那中央病院へ転任されました。遠藤先生は離任後も週1回、木曜日外来でお勤めいただきます。矢口看護部長は訪問看護ステーションで勤務いただきます。長い間本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

看護師奨学金制度が結実、利用5人が大町病院へ

平成25年4月の正規採用予定者数8人、うち新卒者7人で奨学金貸与者は5人います。

看護師などの医療スタッフが不足する中で看護学校へ進学する学生に奨学金（10万円もしくは6万円）が貸し出される制度が創設され、今年はその卒業生が帰ってきます。また大町病院で働いてみたいと希望する看護師もきます。新規臨時採用者も5人が着任することとなりました。この他様々な看護師確保策により平成25年は正規155人臨時職員45人が勤務することとなりました。常勤換算合計187.0人となりかつて看護師等の一番多かった平成16年を上回る配置となります。

なお来年度以降もこの制度利用の25年卒業予定者は11人、26年度6人、27年度5人、28年度1人となっておりこの制度が活用されていることが分かります。大町病院の奨学金制度が社会的に評価され、活用されてきている表れと思われれます。

琉球大学医学部生 15名と「守る会」交流



琉球大学医学部生と「守る会」役員の記念撮影：大町

2月26日琉球大学医学生15名が市立大町総合病院を訪れ地域医療の研修をした。

「地域に期待される医師」を目指して長野県に研修に来られ、大町病院の地域医療推進と守る会の取り組みが今後の医療のポイントとして、中澤勇一先生の取り計らいで設定されたもの。

市立大町総合病院では地域医療の現状を視察、高木哲先生の講演を聞いた。続いて病院を守る会から会長のあいさつと会の活動の説明、組織、活動内容などの概要をパワーポイントで紹介した後、病院を守る会役員6名と3グループに分かれ意見交換をし、今後の地域医療の資源をどのように活用・発展させていくのかを1時間半にわたり懇談した。17時に終了後、医学生は信州大学病院での研修に向かった。

中澤先生と琉球大学医学生から感謝の手紙届く

このたび2月26日開催の「琉球大学医学部学生の地域医療研修」におきましては、大町病院を守る会の活動紹介ならびにグループワークへの参加など大変お世話になりました。琉球大学学生ならびに教職員の皆様より「大変有意義で心に残る研修・勉強会を開催することができた。」との声が聞かれました。医師と地域・住民はお互いにどのような関係を築くことが重要であるかを学ぶ機会になったものと確信しております。これも、守る会の皆様方の熱意とあたたかなもてなしの心によるところが大きいものと感じております。本来ならばお会いして、お礼を申し上げるところですが、まずは書中をもってごあいさつに代えさせていただきます。最後に、大町病院を守る会の北村会長をはじめ皆様方の今後ますますのご活躍と、大町病院の更なるご発展をお祈り申し上げます。

信州大学医学部地域医療推進学講座 中澤勇一

琉球大学医学部一同様からお礼の手紙

先日は私たち琉球大学医学科生の長野実習にご協力をいただき本当にありがとうございました。大町病院を守る会の活動紹介では病院周辺の環境美化や新任医師の先生方の歓迎会など熱心にやられてい



懇談会での清水幹事の説明

て、とてもすばらしいなと思いました。将来、医師として働く私たちとしては病院のために活動してくれる地域の人々がいるというのはとても心強いことだなと感じました。また、守る会の方々とグループワークでは、学生側の意見と守る会（地域住民）側の意見を取り入れて、「地域に求められる医師」について、ポスターを作製し、学生の私たちにとっても、新しい発見ができた貴重な経験となりました。グループワークの最後に会員の方々が「こんなにしっかりと考えている学生ならすばらしい市になる!」とってくれたのがうれしくて、これからの学生生活においても励みになると感じました。お忙しい中、私たちのために時間を割いていただき、本当にありがとうございました。これからも大町総合病院を守る会の活動がんばってください。私たちも沖縄で、地域に愛されるような医師を目指して、しっかりと学んで、がんばりたいと思います。琉球大学医学科1年 知念柊子

地域懇談会に大勢が参加 健康診断を進めよう

病院は医師住宅、職員宿舎建設など攻めの経営を進める

多目的ホール

3月13日（多目的ホール）と19日（市役所東会議室）、守る会が主催して開かれた地域懇談会は両会場に多くの市民の皆さんが参加していただいた。13日は洪田見幹事が司会で約50名、牛越徹病院開設者（市長）、大町病院のおかれた現状と課題について病院から山田博美院長、高木哲外科診療部長、宮脇事務長、矢口看護部長他の参加をいただき、病院の現状と課題を報告いただいた。守る会からは会長はじめ多くの役員会員と市民が参加され1年間の会の活動報告がパワーポイントで行われ、質問意見が出された。

【北村会長あいさつ】

日頃「守る会」の活動に対しご理解ご協力を頂き御礼申し上げます。4年前の2009年9月に高木先生がこの多目的ホール会議室、市内各地で「病院に迫りくる危機」をテーマに対話集会や有線放送、さらに講演会活動を通じて「地域医療を守るために一緒に考えてください」と訴えられました。市民は大きな衝撃を受け、また先生の情熱に心を打たれ、大北地域の医療を守る基幹病院としての大町病院の存続を求めることを目的に、翌2010年5月に市民協力のもと、「大町病院を守る会」を設立しました。以来様々な活動を行ってまいりました。会報22号を発行する今、守る会も設立以来3年を迎えようとしております。今後の守る会の活動をさらに充実したものにするために、本日は皆様より要望等もごつくばらんいただければと思います。守る会の活動は1つ1つは小さな活動ではありますが、微力ながら大町病院を支える確かな力となる活動であると思います。いわば大町病院サポーターとしての役割を担う活動であると思っております。昨年度は山田院長先生には事業管理者を兼務する激務の中、努力により黒字決算を計上するという大きな成果を挙げていただきました。地域医療を支える基幹病院として、この4年間で確実に変わってきております。さらに大町病院が充実するためにも今後も守る会の活動にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



3.13 懇談会：多目的ホール

【山田病院長あいさつ】慢性的医師不足の中、経営改善への取り組みを職員一丸となって行っている。その中で23年度決算が黒字となり、病院機能評価において、大町病院を守る会の存在も評価された。今後の病院のあり方について、地域に密着した医療を提供したい。

【牛越市長あいさつ】病院の危機、医師不足、その中であって職員の努力、守る会の協力に感謝します。現在病院の耐震工事、医師住宅等環境の整備に取り組んでいます。新院長体制がスタートし充足されてきたことに感謝します。

【高木医師の話】2009年大町病院の経営危機が地域医療を考えるきっかけとなりました。市民との対話や呼びかけ、市民講座、有線放送、病院便り等で危機を訴えてきた。危機の背景として病院経営のあり方、地元住民が当院を利用しない、人口減少、医療と患者との関係の変化、情報化、交通の発達等、大町病院の危機は大北地域の危機につながる。(パワーポイントによる詳細な説明)特に医師の不足は深刻で、先生方の健康への配慮は必要だ。医師確保や地域医療充実への日々の努力は欠かせない。

【山田院長説明】中期プランの重点項目として二次救急医療、消化器診療体制、がん診療体制の強化、総合診療の拡充を進める。

【勝野企画課長説明】大町病院と安曇病院の患者数はほぼ半々で、医師の数は大町病院の方が少ない。大町病院の医師の負担と取り組みは瞠目すべきだ。

【守る会からの報告】パワーポイントで1年間の活動(花壇作り、花の水やり、庭木の剪定、病院祭のお手伝い)会報の発行、イルミネーションの点灯、職員歓迎会、ありがとうメッセージ等を報告した。

【懇談で出された質問・意見】

Q がん診察についての今後の取り組みは？

A 消化器、大腸が多く早期ならば内視鏡的に治療、健診率が低く抗がん剤治療は増えていることが懸念。終末期(緩和ケア)は積極的に認定看護師、医師が担当しています。内科(肺)疾患などは他院へ紹介することもある。患者は年々高齢化している。(高木)

Q 医師不足の対応は

A 整形外科は1人の常勤体制で大変だ。安曇病院に依存している。働きかけはしているが大学が大町・北安曇全体でという考えに立っているため前へ進まない。脳外科も必要だ。

A、看護師の奨学金制度ができて3年が経過した。今年4月から、奨学金制度を利用していた新卒の看護師が5名、よその病院から1名が赴任してくれることとなった。制度などの効果が現れてきている。

Q、内科外来の患者の呼び出しのフルネームは検討してほしい。

A、一部では対応しているところもあるが、高齢の方もおり、鋭意検討させていただく。

Q、健診率が低いと聞くが。

A、市をあげて市民の健康管理に対応していかなければならない課題である。健診率は県下でも、19市中18番目である。H25年度からは国民健康保険加入者が人間ドックを受ける場合にどこで受けても最高3万円の補助制度をつくり検診を進める。

A、病院経営は攻めの姿勢で取り組む。医師、職員の宿舍整備を進める。口腔外科の開設なども進めている。

意見

- ・大町病院は医師不足の中で日夜がんばっていることに感謝いたします。
- ・ポスターなど掲示され現在、職員のあいさつ運動が進められている。職員の接遇がとてよくなっている。

【松澤副会長の閉会あいさつ】危機に対する思い、高木先生の説明により胸を打つことが多々ありました。信頼と、心強い病院の印象を受けました。今夜の懇談内容に感謝します。望まれる病院になるためにも、皆様の協力が必要です。

市役所東会議室

3月19日、市役所東会議室で二回目となる地域懇談会が行われ30名が参加した。病院からは山田院長、井上副院長、高木部長、宮脇事務長など多くの職員が参加された。清水あさひ幹事の司会で1日目の次第と同様に進められ、参加者からの発言を求めた。



Q 安曇病院の医師は大町病院の倍いるが医師確保はどうしているか

- ・ かかりつけ医を持たず大町病院へ来る患者が多いが開業医との関わりはどうしているか

A・開業医から紹介され、治療し開業医へ戻す。連携強化し、かかりつけ医を持ってもらうよう今後も勧めていく。

Q 出前講座の利用状況は

・助産師、看護師が小中学校や最近では保育園まで出かけ年に20回ほどお話をしている。公民館などへは保健士が予防などについて40回ほどお話に出かけている。

Q 一般の人の声はとどいているか。それは患者の数に表れているか。

A「皆様の声ポスト」がある。出された意見は院内に掲示、回答している。ありがとうメッセージで勇気をもたらしている。患者数に直結しているかは分からない。接遇は良くなったといわれてきた。まだ厳しい声もある。「サービス改善委員会」が声をデータ化し検討中。全体としては良くなったと思われる。接遇は現在井上先生を先頭にあいさつ運動を進めている。改善をさらに進める。



Q 予約しても待ち時間の2~3時間かかることの原因は

A大町病院は医師の数が少ない。大北では安曇病院に医師がいるから良いのではないかとされる。しかし大北地域は南北に長く白馬・小谷は安曇病院までは遠い。適正な配置を求めていく。

医師としては多くの医師がいたほうが負担は少ないしが、地域にとって見れば難しい。

適正規模の医師数は27人くらいか。少なくとも25~26人くらいは必要だ。科に複数の医師がいれば分担することができスムーズにできるのだが・・・。

意見

- ・ 病院の先生を主治医にしている。白馬・小谷住民は大町病院が頼り。重要だ。
- ・ 大町病院は医師が不足しており、医師に負担がかかっていることが分かった、
- ・ 地元の病院は地元住民で守る決意が必要だ
- ・ 父が何回か入院した。困ったときに大町病院。感謝している。

【文責：高橋】

検診を受けて手遅れをなくそう 受診率アップで医療費削減

(懇談会で話題となった検診受診率、早期発見の遅れによる重症化などの課題に対する市健康センターの出前講座の内容の一部を掲載します。)

1 大町市民の死亡原因は

1位 悪性新生物(がん) 25%	2位 心疾患 19.1%
3位 肺・気管支炎 13.8%	4位 脳血管疾患 12.9%
5位 老衰 9%	

2 大町市の国民健康保険の医療費の状況・一人当たり 321,284円(県内19市中1位)

ひと月100万円以上のレセプトの内訳(23年度)合計188件

◇循環器疾患(50件26.6%・・・この人々は予防可能な循環器疾患)

- 虚血性心疾患 13件(6.9%)
- 脳血管疾患 24件(12.8%)



循環器疾患 50 件の基礎疾患内訳

・高血圧	38 人 76.0%	・・・大町は多い
・糖尿病	13 人 26.0%	
・脂質異常症	9 人 18.0%	

○大血管 7 件 (3.7%) ○閉塞性動脈硬化 6 件 (3.2%)

◇がん (68 件 36.2%)

3、大町市の介護保険の状況は？

① 要介護認定になった原因疾患について (H22 年度)

介護度別年代別 (原因の 1 位)

	40～64 歳	65 歳～74 歳	75 歳以上
軽度 (要支援 1.2 要介護 1.2)	脳血管疾患	脳血管疾患	運動器疾患
重度 (要介護 3.4.5)	脳血管疾患	脳血管疾患	認知症

4、特定健診受診状況 (平成 23 年度)

男 性	40～74 歳	健診受診者	686	23.8%
		国保被保険者	2884	
女 性	40～74 歳	健診受診者	963	30.7%
		国保被保険者	3132	

※ 平成 23 年度特定健康診査受診率男女計 (速報値)

大町市 30.8% (19 市中 18 位)、長野県 40.8%、諏訪市 52.2% (19 市中 1 位) これではいけない。受診し、悪くても早期の発見につなげよう。重症になってからでは医療費も高くなる。富より健康!! 命が大事。

※ H25 年度から国保加入者はどこの医療機関で人間ドック受けても補助金 (最高 3 万円) が出ます。

(詳細は市民課国民健康保険係へお問い合わせください)

5、動脈硬化の原因メタボ、内臓脂肪症候群等は運動、食生活で改善

生活習慣病予防のためのポイント

1 植物繊維を 1 日 25g 以上とる

野菜は 1 日 350g～400g (両手のひら山盛一杯) をできるだけ食事の一番先に食べる。

腸の働きを良くするために、目覚めや食事前にコップ 1 杯の水を飲む。

2 砂糖はとり過ぎない・・・60 歳以上は 10g 以下、果物糖も吸収が早いので 80kcal とする。(例ショートケーキ 1 個 30g、アンパン 1 個 28g、カステラ 1 個 9.5g、饅頭 8.5g)

3 食事のリズム・時間と量の大切さ

- ・ 一口 30 回くらいかむ・・・消化が良く、食欲の抑制、ダイエットになる。脳への刺激は認知症の予防。
- ・ 夜遅くの食事はエネルギーとして使われず、肝臓にたまり (脂肪肝) 脂肪組織にたまり肥満となる。

4 塩分の基本は男性 9g、女性 7.5g、腎臓が悪い人、高血圧の人、塩分は 1 日 6g 未満。

5 運動

- ・ 20 歳～64 歳男 9000 歩、女 8500 歩を目標に 1 万歩を目指す。
- ・ 65 歳以上 男 7000 歩、女 6000 歩を目標に 8000 歩を目指す (※10 分歩くと約 1000 歩になる。週二回、30 分以上の運動を心がけましょう。)

循環器疾患・・・検査で分かること

- ・ 身体の大きさ①身長、体重、腹囲・・・BMI(25以上が肥満)
- ・ 内臓脂肪の蓄積・・・中性脂肪 HDL(善玉コレステロール)
- ・ 肝臓・・・GOT、GPT、γ-GRP
- ・ 腎機能
- ・ クレアチニン(たんぱく質の燃えカス)尿蛋白、尿潜血
- ・ 糖尿病 HbA1c、血糖値、尿糖
- ・ LDL(悪玉コレステロール)
- ・ 心疾患・・・心電図
- ・ 脳血管疾患・・・眼底検査
- ・ 栄養状態・・・血小板、白血球、アルブミン、総蛋白

【文責：高橋】

大町病院に特殊歯科・口腔外科が開設されました

大町病院では、信州大学医学部口腔外科の協力をいただき、4月から特殊歯科・口腔外科を開設しました。特殊歯科・口腔外科は、毎週水曜日午後1時から5時まで診療を行うもので、がん患者の周術期の診療と入院患者の口腔ケアを行っていきます。

現在は、耐震改修工事により、4階西病棟に診療室を設けていますが、8月には、レントゲン機器などの設備を充実し、1階に診療室を設置していく予定です。

病院では、がん治療と歯科の連携などチーム医療の推進が重要視される中で、医療の質の向上を図り、患者さんの多様なニーズに応えていきたいと話していました。

5月から苦痛のない内視鏡検査が始まります

内視鏡検査の受診者が苦痛なく、リラックスした状態で検査ができるよう、プロポフォル(麻酔薬)を使用した検査が始まります。プロポフォル麻酔を使用した検査は、寝ている間に検査を終了することができ、苦痛がなく簡単に検査ができるうえ、使用する麻酔は、“あと”が残りません。リクライニング椅子で1時間ほど休めば、車で帰ることもできるようです。

病院では順次、人間ドックなどの健診から始めるそうですので、苦痛のない内視鏡検査を受診してみたいはいかがでしょうか

第3回病院祭は5月19日(日)に

プランター花植えは5月12日10時から

大町病院の第3回病院祭は5月19日(日)開催されます。

今年も病院祭ボランティアの願いをいたします。(19日8時~15時)

① 駐車場係 ② 会場案内係 ③ 売店手伝い ④ 会場受付係 ⑤ 子供コーナー・読み聴かせ係り
⑥ 布切り指導とカッティング係 ⑦ 会員募集係などです。協力いただける方、問い合わせは事務局長種山 090-3093-2032 または高橋 090-4054-2747 まで。また出店も受け付けますのでご連絡ください。※同封はがきにてご返信ください。

これに先立ちプランターへの花植えをおこないます。5月12日10時から病院正面玄関脇で行います。ご協力をお願いします。

総合防災訓練に救護される模擬患者 20 名を募集

要請 4 月 27 日（土）13 時半～16 時半まで

4 月 27 日災害時の災害救急訓練が行われます。この訓練に拠点病院となる大町病院では看護訓練が行われ、その搬送される模擬患者役、20 名の要請が守る会にありました。ご協力いただける方をのります。協力いただける方は大町病院企画課勝野課長(22-0415)まで。もしくは守る会種山事務局長(090-3093-2032)高橋次長(090-4054-2747)まで。

第 4 回守る会総会は 5 月 11 日（土）19 時から 出席できない方は同封の委任状をお出してください

市立大町総合病院を守る会は、平成 25 年度の第 4 回総会を 5 月 11 日（土）夕方 19 時から市役所東庁舎 2 階会議室において開催します。会員の皆さんは参加をお願いします。

今回は仕事等で忙しい昼間をさけ、夕方から開催することとなりました。大町病院は 22 年度会計は黒字となったものの、医師不足、看護師不足などによる病院の危機はまだ続いています。

生活と命のインフラである病院を守るために私たちは何ができるか、みんなで話し合ひましょう。議題は平成 23 年度事業報告、決算報告、平成 24 年度事業計画、予算案、役員改選などです。

会費の受付もいたします。欠席される方は同封の葉書による委任状の提出をお願いします。また様々なボランティア活動を進めています。葉書に自分が参加できる取り組み番号へ〇印をお願いします。

ガーデニングの花が咲きはじめました <第 1 報>



ロータリー故曽根原さんより頂いたおきな草



正面玄関横のスイセン

東道路沿いクロッカス

会費の納入をお願いします・・・24 年度分の会費の未納の方電話等でお願ひに上がります。なお都合のつかない方は、大町病院 1 階ロビーの受付カウンターにおいて医事課、麻田係長に預けていただいても結構です。新規会員も募集中です。加入者を紹介ください。

インターネットに会報が掲載されています。御覧ください。

守る会会報 1 号から 22 号までがインターネット上に掲載されています。「市立大町総合病院ホームページ」の右側下段の「病院を守る会」欄をクリック、または「市立大町総合病院を守る会」で検索してみてください。会報がカラー写真で掲載されています。

この会報は大町市きらり輝く協働のまちづくり支援金制度の助成を受けて作成されています。